

日本養生(ようせい)学会

第28号

ようせい

YOHSEI = Life Awakening Arts

事務局:東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX:03-5382-6092 <http://www.yosei.gr.jp/>

- ▷巻頭言
- ▷総会議事録
- ▷2005年度決算報告書
- ▷2006年度事業計画
- ▷コラム:ようせい

本会のモットーは「共生原理」

疲弊している病院の現場から

横須賀北部共済病院

院長 桑名 信匡

昨今は各メディアで健康ブームと騒がれているが、昔も様々な民間伝承があり、いつの時代も変わりはないのだろう。健康ブーム自体に不満はないが、健康な身体をどう活かすのかや充実した生の視点の欠落が気になる。その点「生きる力を養う」養生学には共感することが多い。

そもそも「病」は負け組? 生まれつきの障害や病気もある。疾病や障害との共生もありだし、病になっても元気という状況もありではないか。我々医師は不幸にして病を得たり障害を持った方の治療やケアを生業としている。いわば養生学のサポート部隊である。ところが、我が国の病院の現場は疲弊していて危機的状況にあるのは御存知ですか。

様々な原因によるのだが、医師、看護師不足は大きな問題となっている。さらに疲れ切った中堅勤務医の開業バブルが進んでいる。長い間、病院の現場では定員法で人数を制限され、勤務医の責任感と医療への志に甘えて来ていた。サービス残業、当直明け勤務も日常的で疲れている。

どの科でもチームを率いるリーダーとなり得るには医師となって最低10年は掛かるし、科によっては秀れた専門医になれるのは志望者の2~3割と考えてよい。このクラスは地域の中核病院に1~2名しか配属されないの、夜間休日もなく働き通しで秀れた者ほど休みは取りにくい。一方、燃えつきたり、ここまで技倆が伸びずに開業したとすると、一般的には5~6年で勤務医時代の4~5倍の年収を得るようになる。最近の新卒の医師はきつい領域へ進むのは敬遠しがちである。

看護師も似た傾向にある。昔は看護学校を出ると急性期の忙しい病院で修行をしてから慢性期や診療所へというパターンであったが、最近は若い内から人間ドックやビル診療所などの夜勤のない所へ行きたがるという。

プロフィール

1943年福島県生まれ。1969年東京医科歯科大学医学部卒。1970年関東通信病院脳神経外科レジデント。1974年横浜市立大学医学部脳神経外科講座助手。1977年横浜南共済病院脳神経外科初代医長。1983年同部長。1987年米国ニューヨーク州マウントサイナイ医科大学、仏国リヨン神経病院へ出張。2001年横須賀北部共済病院副院長。2002年同院長、現在に至る。著書に、「脳神経外科」(共著)・「認知症を「手術で」直す男: L-Pシャント手術の先駆者として」ほか。学会活動は、日本脳神経外科学会専門医同学会代議員・日本養生学会理事ほか。

こうして残されて疲れ果てた乏しい人員による病院医療の空洞化が着々と進行中であり、国は今回の診療報酬改訂でも殆ど是正しようとはしていない。医療費の適正化という名の下に恐ろしい時代に進む可能性がある。

養生学では生きる力を養い、自然観、人間観、身体観を見直すという大切な目標があるが、そのサポート部隊にも大いに関心を持って頂きたい。

まじめな会員とは言い難いが、会員の末席を汚している責任で、若干の危惧の念について述べさせて頂いた。(日本養生学会理事)

2005年度総会議事録

期日：2006年3月4日(土)

会場：上智大学7号館

総会は池垣功一氏の司会で進行し、議事に先立って、鎌田章副会長が「挨拶」を述べた。ついで、鎌田章副会長を議長に選出し、以下の議事を審議承認した。

1. 2005年度事業報告

横澤喜久子理事長から、各委員会報告を一括して、下記のように報告を行った。

(総務委員会事項)

(1)メール会員制度の導入に関する制度の整備について

▷会員への情報伝達方法を漸次電子化する方向で総会に提案し、了承された。

▷会誌編集委員会と協議の結果、学会誌をオンラインジャーナル化することに決定。

(2)会員拡大策について

▷情報伝達の電子化推進と並行して、「電子メール会員制度」等の検討を続ける。

(研修委員会事項)

(1)国内研修会について

2005年度の国内研修会は2005年度日本体育学会の会期中に並行して開催し成果を収めた。

研修会名：ようせいフォーラム「からだの礎－理論と実践Ⅰ－」

開催日時：2005年11月26日(土)13:00-17:00/27日(日)09:30-12:30

開催場所：筑波大学・春日キャンパス・第2トレーニングルーム

(2)ようせいサロン開催(3回)

▷第1回ようせいサロン(7月22日)

講師：池田裕恵(東洋英和女学院)

論題：子どものこころとからだ－からだを動かす、こころが育つ－

▷第2回ようせいサロン(9月10日)

講師：遠藤卓郎(筑波大学)

論題：「意識」と「からだ」と「自分」を考える－東洋的身体技法を教材として使った授業からの省察－

▷第3回ようせいサロン(10月15日)

講師：横澤喜久子(東京女子大学)

論題：養生(ようせい)とはなにか－個人的活動から学会活動としての取り組み－

なお全3回とも、張勇先生(長野県短期大学)のご指導で、「ようせい体操バージョンⅠ」の練習会を実施し成果を収めた。

(編集委員会事項)

(1)ニューズレターの発行について

▷ニューズレター「25号・26号・27号」を発行した。

▷ニューズレター「28号」は準備中。

(2)会誌編集について

会誌の編集委員会委員長の交代があった。新メンバーは次のとおり。

編集委員長：天野勝弘

編集委員：遠藤卓郎・池垣功一・池田裕恵

なお、会誌は当分の間、オンラインジャーナル形式で発行予定。配付方法、著作権問題などは今後検討していくことになった。

(広報委員会事項)

ホームページの充実を行った。2005年10月より、ホームページの名称を、旧称「大学体育養生学会」から、「日本養生学会」に変更。

(学会大会委員会事項)

学会大会「ようせいフォーラム2004」を2004年3月5・6日に東京女子大学で開催。

(開発研究プロジェクト事項)

- (1) イタリア・サルデーニャで開催の「世界民俗舞踊フェスティバル」に本学会員6名参加。
- (2) 『健康なからだの基礎－養生の実践－』（市村出版）を出版予定。
- (3) 東大ゼミ「太極拳を科学する」を3年前から実施。継続中。

2. 2005年度収支決算報告

池田裕恵常任理事より下記の「2005年度決算報告書」基づいて報告。平野卿子監事より監査報告。承認。

[2 0 0 5 年度決算 (2005年1月1日～12月31日)]

I. 収入の部

勘定科目	予算額	決算額	増△減
会費収入	310,500	341,250	30,750
全国大学体育連合補助金	100,000	100,000	0
ようせいF参加会費	60,000	90,000	30,000
研修会参加費		87,000	87,000
前年度繰越金	850,946	850,946	0
寄附金		46,770	46,770
収入合計	1,321,446	1,515,966	194,520

II. 支出の部

勘定科目	予算額	決算額	増△減
運営費			
会議費	30,000	42,892	12,892
賃金	10,000	10,060	60
印刷製本費	50,000	5,870	△44,130
通信費	80,000	82,920	2,920
消耗品費	50,000	42,661	△7,339
交通費	90,000	94,000	4,000
借料	5,000	0	△5,000
広報宣伝費	30,000	32,800	2,800
慶弔費	5,000	15,750	10,750
予備費	10,000	0	△10,000
事業費			
ようせいF2005	100,000	130,010	30,010
中国研修会補助	0	0	0
国内研修会	100,000	207,520	107,520
研究プロジェクト推進費	50,000	52,850	2,850
支出合計	610,000	717,333	107,333
次年度繰越金	711,446	798,633	
合計	1,321,446	1,515,966	107,333

III. 収支差額

収入「1,515,966」－支出「717,333」＝差額「798,633」

2006年3月2日 監査の結果、上記に相違ありません。監事印。

3. 2006年度事業計画

横澤喜久子理事長より説明。審議の結果付帯事項を追加して承認（別掲）。

4. 2006年度予算案

池田裕恵常任理事より別紙資料に基づいて説明。原案どおり承認。

事業計画

— 2006年度 —

1. 総務委員会事項

- (1) 会員拡大を図る。
- (2) 情報伝達の電子化を推進。
- (3) 役員改選は会計年度移行にともなって2006年10月に行う。
- (4) 会計年度の移行にともなって予算案成立前に学会大会を開催せざるをえない事態になっているとの指摘があった。この件に関して、本年度の大会開催については事後承認とし、常任理事会へ一任し企画する。

2. 広報委員会事項

ホームページの充実を行っていく。

3. 開発研究プロジェクト事項

- (1) 東大ゼミ「太極拳を科学する」を継続。
- (2) 出版計画「第3冊目」を企画する。

4. 研修委員会事項

- (1) 「ようせいサロン」の開催。
- (2) 「国内研修会」の開催。
- (3) 「海外研修会」の開催。
- (4) 「テキスト」（既刊図書）を中心とした研修会の開催。
- (5) 「ようせい体操」に関する研修会の開催。

本年度も、上記のとおり、充実した事業計画のもとに本会の活性化を図っていきます。会員みなさまのご参加をお願いします。

1996年、ときの中教審は、「生きる力」という標語を掲げた。そしてその涵養の場として「ゆとり教育」を重視してきたものの、巷間で槍玉にあげられた学力低下問題に押し切られて、方向転換。ところで生きる力と言葉の力との関係をどう理解すればいいのか。

すかさず「小学校から英語を必修」問題の賛否両論が「英語はいまや地球語」とか「日本語で考える教育こそ」とデッドヒート。しかもいずれもが「言葉の力」問題に言及。一方で、「金融教育は子供たちにとって『生きる力』そのものの教育」だから学校教育に編入をという呼び掛けさえも行き交っている。

ならば、である。コラム子は小学生のために英語必修よりも「日本語で考える教育を」論の味方だ。だが条件がある。この際、言葉の力（頭）でなく、「からだの力」で考えることを出発点にすべきでないか。もちろんここでは、体力のみをいうのではなく、まるごと「からだ」での生きる力を問うている。

会員募集！！

本会はますます斬新な企画をみなさまとともに展開しております。一般会員や大学院研究生などの「新会員」募集中…。

年会費の振込は下記へ

みずほ銀行西荻窪支店
普通・2118044
日本養生学会：横澤喜久子

コラム：ようせい

このほど中央教育審議会は、「学力低下」問題を受けて、次期学習指導要領の改訂に照準を合わせ「言葉の力」育成という指針を提示することになった。さて、どうなるのか。

日本養生（ようせい）学会

東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX：03-5382-6092

http://www.yosei.gr.jp/

☎167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1